

研究機関：広島大学

研究課題名	H3.3 K27M 抗体陽性 glioma の臨床免疫組織学的検討
研究責任者名	広島大学大学院医歯薬保健学研究科脳神経外科学 教授 栗栖 薫
研究期間	2018年8月2日(倫理委員会承認後)～ 2019年 3月
対象者	2007年 1月 1日から2016年 12月 31日までに、広島大学病院にて脳腫瘍と診断され、手術を受け、免疫染色でH3.3 K27M 抗体陽性かつH3.3 me3 抗体陰性の検査結果であった患者さんを対象とします。
意義・目的	免疫染色でH3.3 K27M 抗体陽性かつH3.3 me3 抗体陰性の場合、びまん性中心性グリオーマと診断されます。このびまん性中心性グリオーマは悪性度が最も高いと考えられていますが、実際には低悪性度の腫瘍が混在していることが報告されています。免疫染色でH3.3 K27M 抗体陽性かつH3.3 me3 抗体陰性の臨床的な特徴についてMR画像を検討すること、また病理学的な特徴を他の種類の免疫染色で検討することで、高悪性度と低悪性度の鑑別を行うことを目的として本研究を行います。効率的に見分けられるようになれば臨床的意義は極めて大きいものになります。
方法	本研究は、全て診療録（カルテ）情報を転記して行います。また、病理検査の免疫染色でH3.3 K27M 抗体陽性かつH3.3 me3 抗体陰性の患者さんの、手術摘出済みの病理標本を病理学的に追加検討します。検討するのは、イソクエン酸デヒドロゲナーゼ 1 遺伝子変異 (mIDH1)、ATRX 遺伝子変異、p53 変異蛋白発現、EZH2 蛋白発現、MIB-1 labeling index になります。治療前に施行されて、データ取得済みのMR検査から得られる所見とその後の臨床経過を診療録から転記して、統計学的に解析します。カルテから転記する内容は年齢、性別、病気の診断、MRI画像のパラメーターのT2強調画像/FLAIR画像、拡散強調画像、造影所見のパラメーターを解析し、鑑別診断法の確立を目指します。 (個人が特定出来る情報は転記しません) 本研究はヒトゲノムに関する研究ではありません。
共同研究機関	なし
試料・情報の管理責任者	広島大学 教授 栗栖 薫
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel : 082-257-5481 広島大学病院脳神経外科 講師 山崎 文之